

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-156348

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月16日

| (51) Int.Cl. ⁸ | 識別記号 | F I | |
|---------------------------|------|---------|------|
| C 0 2 F | 1/30 | C 0 2 F | 1/30 |
| A 0 1 N | 1/00 | A 0 1 N | 1/00 |
| | 3/00 | | 3/00 |
| A 2 3 L | 1/00 | A 2 3 L | 1/00 |
| | 2/00 | A 6 1 N | 5/00 |
| | | | Z |

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平8-354775

(22) 出願日 平成 8 年(1996) 12 月 2 日

(71) 出願人 000134280

株式会社トーシンテクニカル

神奈川県伊勢原市栗窪31-12

(72) 発明者 清水 康弘

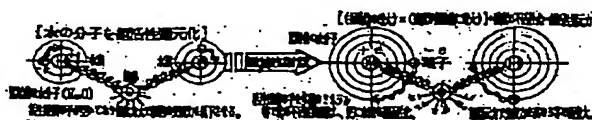
神奈川県伊勢原市栗窪31-12

(54) 【発明の名称】 水素を含む液体又は水分の処理方法

(57) 【要約】

【課題】 従来の方法においては、鮮度保持剤や医薬を用いていたため、鮮度が長続きしないとか副作用が多く発生していた。

【解決手段】 本発明による水素を含む液体及び水分の処理方法は、水分に α 線、 β 線、 γ 線を照射し、水の水素原子の量子数を増加させて水素原子の化学活性度を高める方法である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】液体又は水分に α 線、 β 線、 γ 線の何れか又は全部からなる放射線を照射し、前記水の水素原子の量子数を増加させて前記水素原子の化学活性度を高めることを特徴とする水素を含む液体又は水分の処理方法。

【請求項2】前記放射線は、希有元素鉱石から得られ、その放射線は、WHOで定めた基準以下であることを特徴とする請求項1記載の水素を含む液体又は水分の処理方法。

【請求項3】前記水分は、飲料水、油、ガソリン、体内の体液、食物の水分、植物の水分、生物の水分の何れかであることを特徴とする請求項1又は2記載の水素を含む液体又は水分の処理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は水素を含む液体又は水分の処理方法に関し、特に水等の液体中の水素原子の量子数を増加させて水素原子の化学活性度を高めることにより、水、人間、動物、食物等の活性化を計り、水、人間及び動物の活性度及び生命の活力を向上させ、治病効果を発揮し、食物の鮮度を向上させるための新規な改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、用いられていたこの種の水分の処理方法としては、一般にソルビット等の化学合成剤からなる解度保持剤を用い、例えば、肉、魚等の食物に添加して鮮度を長持ちさせるようにしていた。また、動物や人間あるいは植物には種々の化学合成剤からなる医薬を用いて、体内あるいは組織内の水分に反応を加え各種の治病を行っている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来、用いられていたこの種の水分の処理方法は以上のように構成されていたため、次のような課題が存在していた。すなわち、鮮度保持剤の場合、一時的に鮮度は保たれるが、組織を活性化させる作用は有していないため、数時間しか保たれず、この鮮度保持剤が人体等に与える副作用についても全く未知のものであった。また、各種医薬品についても、大きい効果はあるものの、その反面、副作用も多く、その副作用による悪弊も多くなっていた。

【0004】本発明は、以上のような課題を解決するためになされたもので、特に、水等の液体中の水素原子の量子数を増加させて水素原子の化学活性度を高めることにより、人間、動物、食物等の活性化を計り、水、油、ガソリン、人間、動物の活性度及び生命の活力を向上させ、治病効果を発揮し、食物の鮮度を向上させるようにした水分の処理方法を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明による水分の処理方法は、水分に α 線、 β 線、 γ 線の何れか又は全部から

なる放射線を照射し、この水の水素原子の量子数を増加させて水素原子の化学活性度を高める方法である。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、図面と共に本発明による水分の処理方法の好適な実施の形態について説明する。一般に人間の六割から七割は体内の水分の目方である。この一事から見て水こそ最も重要な生命の要素である事が明らかである。ところがこの30年来我国の工業生産の急速な進展にともない工場排気や排水、家庭排水、車両排気などによって空気や水の汚染が年ごとに増加すると言う公害問題が起きてきて人間の健康をおびやかすようになって来た。そして都市水道水にはトリハロメタンのような発癌物質まで含まれるようになって国民の健康を脅かすようになって来た。このような状況に鑑み都市では次第にミネラル水がボトル入りで販売されるようになり、最近ではヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランド等の国々からも輸入販売されるに至っている。このような社会風潮はおるので他の物に対する化学的活性度は低い性質になっている。クラスターが小さいほど、活性度が高い水である。この点から考えて私達が食物を通して直接的に飲料として体内に摂取する水はクラスターの小さい水がのぞましく更にクラスターを形成していない単独の分子の水が飲料水としては最も望ましいのである。その理由は化学的活性度が高いので酸化剤としても還元剤としても最も化学性が高く従って身体生理を旺盛にするように働くからである。

【0007】酸素一原子と水素二原子が結合しただけのクラスターを形成しない水は天然水としては殆どなく、雨水、井戸水、湧水、湖水、川水、水道水などはいずれもクラスターを形成している。クラスターの形成の仕方の若干を構造的に図3に示した。さて水分子が形成するクラスターの小さい水が健康の為に望ましい事であると述べたが、そのような水が必ずしもおいしい水とは限らない。おいしい水の条件としては水の中にカルシウム、ナトリウム、マグネシウム、鉄などのミネラル分が溶けているミネラル水と言われている水で俗に軟水と言われている水である。どうしてそのような水がおいしい水かというとそれらのミネラル分が水分子の成分である酸素の余分のイオン力を封じるように結びついているからである。これは水の酸化力が低下しており身体生理上にも良いからである。私達は空気から酸素を摂取しているが摂取酸素の過剰は肉体細胞の細胞膜の過酸化破壊の原因ともなり老化を早める。水の酸化力過剰も肉体老化の原因ともなる場合があるので水の酸化力を制限し摂取するのがよいのである。この意味から近年ミネラル水と言われる水がおいしくて健康に良い水としてもはやされている。近年になって水の中にミネラル分として塩化鉄や亜鉛などの金属を溶解（水の酸素原子と結合）した水を何か薬理効果をもつように宣伝し、そのような水や水加工器具を販売する向きがあるがそのよう

な水は酸化還元電位が低い(酸素原子の活性を金属イオンで封じているから)ので水成分の水素の還元力作用の度合が高く肉体の老化を防ぐので健康上に良いとされているが、このような金属イオンを過剰に溶解させた水にはかくれた危険がひそんでいる。その理由はひとたび体内に摂取された金属イオンは体外に排出されにくく終局的には脳内の血管の脂肪分と結合して脳に停滞してアルツハイマー病、(老人ボケ)いしい水が飲みたいと言う欲求にとどまらず健康維持の為に健康に役立つ水が飲みたいと言う事に起因してビッグビジネスへと成長しつつある。そしてまた治病的効果を歌い文句にした水も多種にわたり発売されている現状をもたらせた。そのような水の最初のものは溶解しているカルシウム分をイオン化したような物であるが最近では水分子間の相互結合(化学用語で会合と言う)を防止した水の効果が宣伝されるようになってきている。何ゆえにそうやって来たかについて説明する。水が私達の身体内に摂取されると体内においては生体化学生理活動で水はある場合には酸化剤として作用し、またある場合には還元剤として作用するが、それらの化学作用をする為の活性の度合いは水の分子の大小によって作用度合いが違うのである。通常私達は常識として水は一個の酸素原子と二個の水素原子が化合しているものが水の分子であると理解しているが、現実の水はそんなに簡単なものではなく水の分子には理論的に言えば36種類ある。しかし現実的な通常の場合には16とおりの種別の水分子が混在している。

【0008】また、何ゆえに水の分子にそのような多種類が存在しているのか、と言う事について少々説明する。水の成分である水素には三種類の同位元素があり、酸素には六種類の同位元素が存在しているので、それらの水素と酸素の組み合わせから多種類の水の分子的化合が存在する。そして更にその水分子の団子状態の集合の仕方に多様性がある。どうして、そうなるかと言うと水素のイオン値は一であるが酸素のイオン値は八であり、その八の内の二は二個の水素のイオン値と結合しても余りが六もあるので酸素原子には他の原子と結合する余力があり、その余力が他の水の分子に力を及ぼす事によって水と水の分子が集団的に団子状態にからみつき大きな水の分子集団をつくる。その集まり方の一例を図1に模式的に図示した。(図は平面的に示しているが立体的にも集団を作る。)

【0009】図示のような水分子の会合集合の事をクラスターと言う。このクラスターの出来方を左右している水分子の電気エネルギー的な出来方には図2に示すような種別がある。図示の例は最も簡単なクラスターの出来方を示したが水の分子が二個から十六個程度の集団でクラスターを形成する場合が大部分であるがクラスターの大きい水分子ではこの分子相互のあいだで電気的エネルギーのやり取りをする原因となるからである。従って、直接的に金属イオンを溶解するような水は、おいしくて

一見健康に良い水のようなものであるが老人ボケの原因となる危険な水なのである。そこで積極的に健康に危険なく役立つ水とはどのような水が、またそのような水を作り出す方法は無いか、と言う事になるが、はたしてこの要求に答える方法はあるかというとその方法が発明されている。以下、その発明による水加工装置と、製造された水について説明する。

【0010】水に放射能を照射するとどのような現象が発生するか、というと二つの状態が考えられる。その第一の場合は放射線照射を受けた空気が放射能力を持ち、それが水に溶解している状態である。そのようなラジオエマナチオン(或はラドンとも言う)を含む水という。その実例として良く知られている水は鳥取県の三朝温泉の湯です。第二の水はラドンの溶解は無いが放射線照射で分子の構造が変化した水です。この種の水こそ本発明の水なのである。この水では通常の水とはどこが違うかという事について説明する。前に説明した金属イオンを溶解させた水では酸素原子の働きを抑制する事で水素原子の活性を相対的に高める方法を取るものであったが放射線照射による方法は水の成分の水素原子の量子数を増加させて水素原子の化学活性度を高める方法をとるものである。この方法を少し詳しく説明する。次ぎの図4(A)に水素原子の状態図4(B)に放射線を受けた水素原子の状態を模式的に示した。

【0011】図4の(A)で模式的に示すように水素原子の核のプロトンとそれを取り巻いて回転している一個の電子の距離は原子力学理論ではボーアの半径と言われ、その理論値は、0.529オングストロームと算出されてる。この状態の水素原子は量子数1の状態であると言われている。この状態の水素原子に放射線照射をすると核と電子の距離が二倍に増大し(B図)それに従って量子数2になる。この事は何を意味するかというと水素原子の核と電子の間の引力が低下した事を表し、水素が化学的に活性化した事を示し、量子数2になれば活性度は量子数2の2乗倍すなわち4倍に増強される。水素原子が活性化した水が体内に摂取されると肉体の生理的活動上では還元力が四倍に増強され細胞破壊や老化が防止される結果をうむ。またその生理作用の増強は人体に神が与えた自然治癒能力が増強され、その結果として健康維持に大いに役立つ結果をもたらせる。この装置を用いると酸化還元電位が530ミリヴォルトもあつた東京の水道水を4時間の加工で酸化還元電位を220ミリヴォルト程度の健康水に改質する事が出来る。しかも金属イオンを強制的に溶解したり放射能を帯びる事もなく安全である。これに用いるセラミックスも放射能10ベクレル程度の低いもので(WHOの基準である規限度377ベクレル以下)あり法律的にも問題になる事はない。

【0012】本発明により処理して得た水は有効な数十種のミネラル等で酸素を不活性化させた上に、世界で始めて、水の中の水素(H)超活性還元化している。水素

は一つの原子核(陽子+e)の回りを一つの電子-eが一定時間に一定の半径で、振動しながら周回していますが、微量の放射線を浴びた「ヘルスウォーター」の水素は陽子と電子間の引力が次第に小さくなり、この半径が造水時間と共に二・三・四・五・・・倍と整数倍に遠ざかって回転している。一回転する時間は一定であるから、電子の回転速度が整数の2割倍に、振動数も増大、激しく振動しながら回転し、水を還元活性化している。尚、本発明に用いたα線、β線、γ線を発生させるセラミックからなる鉱石の成分としては、希有元素鉱石である。

鉱石名 フェルグソン石

| 化学組成 | 百分比(%) |
|----------|--------|
| 酸化ラジウム | 5.90 |
| 酸化ナトリウム | 1.2g |
| 酸化ニオブウム | 41.3g |
| 酸化タンタル | 3.83 |
| 酸化イットリウム | 38.2g |
| 酸化セリウム | 0.43 |
| 珪酸 | 1.64 |
| 酸化鉄 | 1.04 |
| 酸化アルミニウム | 0.55 |
| 酸化チタニウム | 0.19 |
| 酸化カルシウム | 0.17 |
| 酸化マンガン | 0.10 |

また、このセラミックを用いて液体や水分の処理をする場合は、セラミックを水中におくか水と接触させて水を循環させるか、このように処理した水を飲むか、物に与

えるか、セラミックを物に接触させるか、このように処理した水を体内に入れるか等の方法を用いる事が出来る。なお、水の他に、ガソリン、油、酒、切削油、切削水、化粧水、放電加工、ワイヤカット等の機械加工用の水、等の全ての液体に適用することができる。

【0013】

【発明の効果】本発明による水の処理方法は、以上のように構成されているため、次のような効果を得ることができる。すなわち、水の水素原子の量子数を増加させて酸素の活性化を防止し、水素原子の化学活性度を高めるため、水の活性度が従来よりも大幅に向上し、この水を用いた食物の鮮度の向上、植物の活性化、人間及び動物の細胞の活性化による治病効果(各種病気の治病が得られている)、生命力の向上を得ることができる。また、ガソリンは有害物質が消えてパワーアップとなり、水も細菌、ダニが消える。また、水が酸化しにくいので還元力が強く活性化するため切削面もきれいになり、水も長持ちする。

【図面の簡単な説明】

【図1】水の組成を示す構造式である。

【図2】水の組成を示す構造式である。

【図3】水の組成を示す構造式である。

【図4】水に放射線を与えた状態を示す原理図である。

【図5】水のキルリアン写像である。

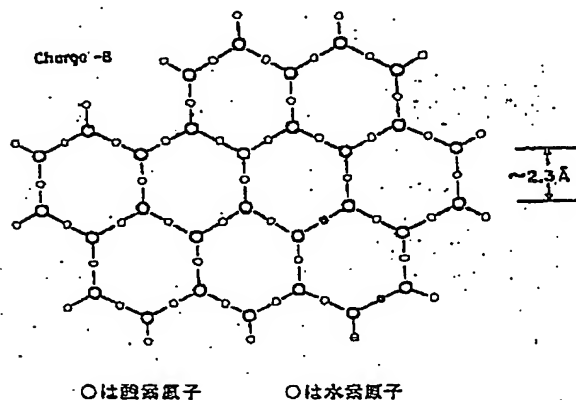
【図6】水のキルリアン写像である。

【図7】水の分子を活性化させる状態図である。

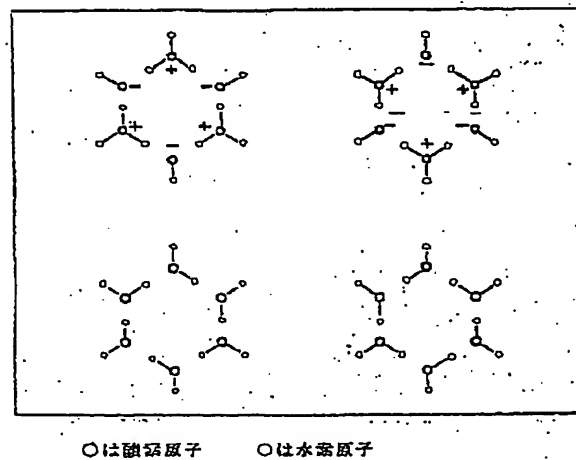
【符号の説明】

なし

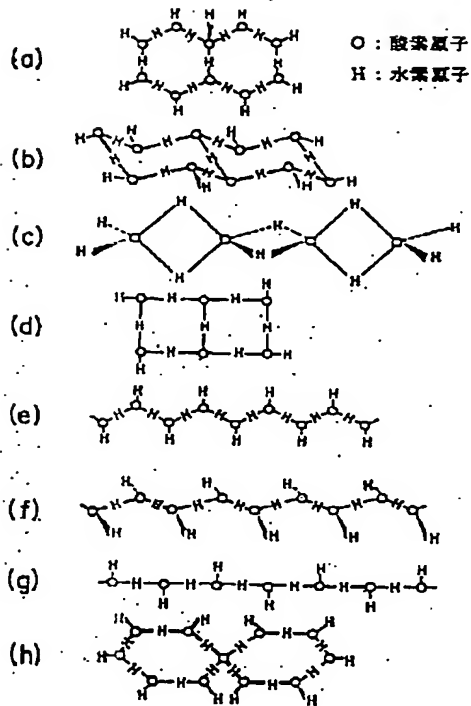
【図1】



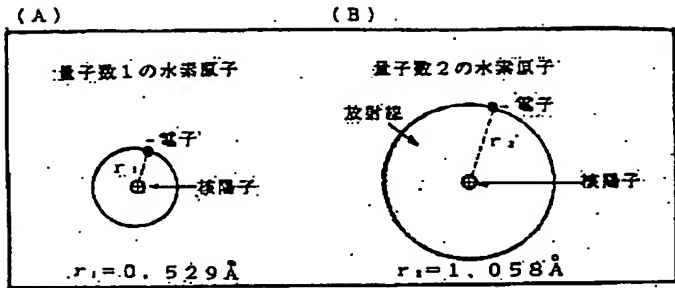
【図2】



【図3】

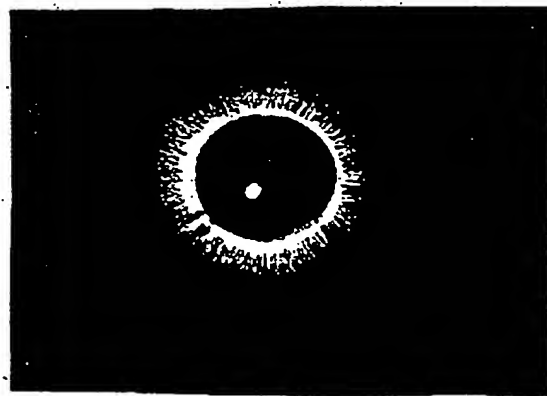


【図4】



【図5】

ヘルスウォーターで処理する前の
水のキルリアン写像



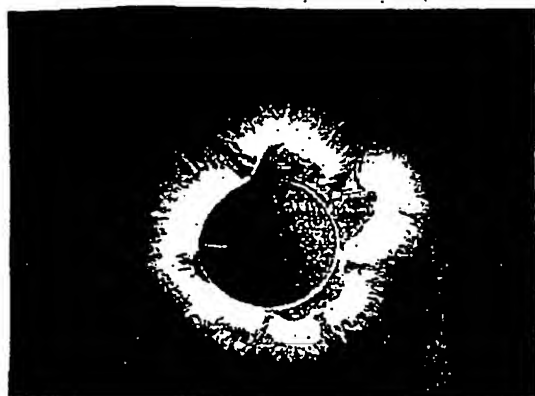
処理後の写像と比較して見て下さい。

撮影条件は同じです。

吸収紙を直径30ミリの円形に
切り抜き、それにテストする水を吸わせ
40000ボルトの高周波電圧を通過し
写真フィルム面にコロナ放電像を直接に
写像しました。試験水は東京都の水道水。

【図6】

本発明に係るセラミックスを用いて処理した
キルリアン写像



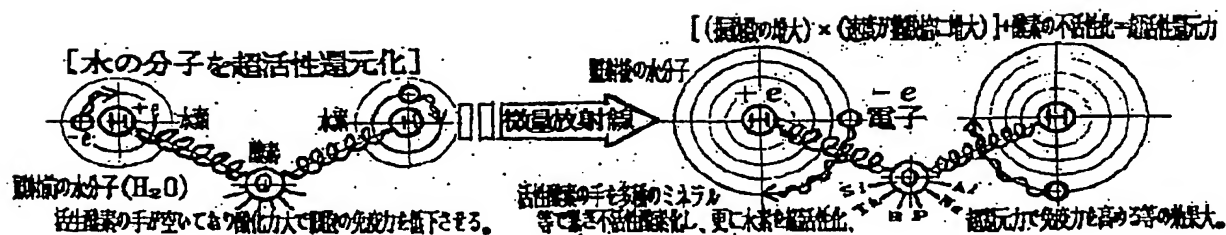
写像のコロナ値は【仙舟の清水】のエネルギー強度を表現しています。

水の【仙舟の素】による処理時間は5時間

電圧40000ボルト 露出時間2分の1秒

使用フィルムはボーラロイド55

【図7】



フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁶

A 61 N 5/00

識別記号

F I

A 23 L 2/00

V